平成29年度 公益財団法人大分県体育協会臨時評議員会

日 時：平成30年3月20日（火）10：00～

会 場：大分県医師会館 6F研修室I

出席者 (36名)	熊谷 和雄	堤 聖一	坪井 公治	衛藤 敬	福田 茂	岡松 眞明
	大野 成臣	池田 進一	梶川 清明	田中 功一	秋吉 春夫	三宅 文子
	梶原 増美	佐藤 重徳	曾我 圭司	後藤 佑	久保田 勲	羽田野浩二
	小出美沙都	秋吉 勝彦	藤井 治	藤原 直也	石堂 克己	河野 利雄
	西 明宏	山口 次男	麻生 純二	後藤 和司	福田 雅樹	安部 新悟
	栗林 久	別所健太郎	渡辺真由美	嘉名 竜馬	小野 哲也	白木 寛章

欠席者 (29名)	中村 哲明	米津 康広	奥村 正二	加藤 裕三	大石 祥一	波津久郁生
	利光 正	吉野 真治	後藤 幸正	安藤 隆治	佐藤 直樹	富松 秋實
	山崎 隆明	五十川浩司	結城 順史	児玉源太郎	佐藤 士文	山田 昌信
	丸山野康弘	高山英一郎	穴井洋一郎	齋藤 隆生	井上 涼治	衛藤 欣哉
	河野 英樹	後藤 栄二	大海 明治	谷上 和年	河津 龍治	

資格確認

○伊藤総務部長が出席者36名で、定数の過半数の出席であるため、本会定款第22条に従い、本会が成立することを報告した。

1 開会のことば

○伊藤総務部長が開会のことばを述べた。

2 あいさつ

○井上倫明専務理事があいさつを述べた。

皆様、おはようございます、本日は、年度末の何かとご多用のところご出席いただき本当にありがとうございます。本来ならば、会長の広瀬知事が皆様方に御挨拶申し上げるところですが、あいにく公務の為、出席が叶いません。代わりまして、ご挨拶をさせていただきたいと思います。この一年間を振り返ると、毎年のように体育協会は多くの行事を行いまして、一定の成果を挙げて年度末を迎えることができるという思いもございます。一定の成果と言いましても、その成果がそのまま、来年の課題に直結するものでございます。少し振り返ってみたいと思いますが、まずは愛媛国体の件でございます。愛媛国体に関する競技力向上対策は、皆様方のおかげで本当に一生懸命やっただきました。結果は、25位ということでございます。私どもが愛媛国体に臨むときは、その前の岩手国体が散々な結果でございましたので、2年越しの目標を立てていこうということで、愛媛では20位台の上位と、本年の福井国体では10位台を狙いに行き、チーム大分を復活させるという2年越しの目標をたて臨んだ大会でございました。その後、愛媛国

体が終わっていろいろなことを分析致しました。これまで10位台に入っている都道府県のデータをいろいろな角度から見てきました。そうすると、チーム大分の場合、福井国体で10位台に入れる確率というのが出てきました。なんとこの確率は0.7%でございます。非常に厳しい数字です。ですが、0ではありません。可能性はあるということです。ただその大変厳しい確率の中に入っていこうとする時に、これまでの強化では当然駄目だということはもう明白だと思います。今日は、評議員の方がここにお集まりですが、競技団体の中でお話しをしていただき、本当に厳しい状況で危機感を持っていただきたいということでございます。

大分国体から10年間は過ぎようとしていますが、大分国体に向けては全ての競技団体が「危機感」を共有していたと思います。絶対、なんとしてでも天皇杯をとると、そういった厳しい状況の中でみんなが力を合わせて天皇杯をとった訳でございます。

そういう事を今一度思い出していただいて、「危機感」を共有して頂きたいということでございます。

2点目は、選手強化には強化費がつきものでございます。先日、競技力向上対策本部の方から各競技団体30年度の強化費の内示をさせていただきました。もちろん、強化費というのは県民の税金でございます。この税金を割いて強化をしているという「自覚」と「責任」の重さを今一度考えていただきたいとお願いするところでございます。

強化費はいろいろな方々のご支援をいただいております。大分国体が終わって10年ですが、他県に比べて破格の強化費がついております。強化費をいかに有効に使っていくかということや、考えていただきたいと思えます。沢山あればいいというのではなく、いかに有効に使うか、その財源は県民の税金であるということです。当然、頑張ったけれども結果がでなかった、ごめんなさいというのはもう通用しないと思えます。是非とも「強化費」の重みを共有していただきたい、「自覚」と「責任」をもって強化をしていただきたいということをまずお願いしたいと思います。

3点目は、協会全体・連盟全体・競技団体全体の「強化体制」を今一度、チェックをしていただきたいという思いであります。何でも事を起こすにあたっては、また、目標に向かっていくためには、その団体の気持ちが一つになっておかないといけないということでもあります。いろいろな強化現場の声が聞こえてくるわけですが、強化の最前線の方々、指導者の方々、協会の上層部の方々がいっしょにいないというような競技団体もあると伺っております。そういうことではなかなか難しいのではないかと思います。まず、国体に関する競技団体の皆様方が気持ちを一つにさせていただき、それが一番であり、そしてそれが全部集まり、チーム大分が結成され、また気持ちを一つにしていくということが一番大事かと思えます。「危機感」の共有、「強化費」の重みの共有、「強化体制」の見直しの、以上3点をしっかり考えて頂きたいと思えます。今日は評議委員会でございますが、体育協会は国体だけをやっているわけではございません。県民体育大会もそうですし、また、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ、いろんな事業を展開しています。その中でもスポーツ少年団の件については、後程事務局の方からも説明があらうかと思えますが、全国的に伸び悩み、団員数が減っているという状況ですが、大分県においては3年連続で増加をしており、大変いい結果が出ております。

とは言え、少子化の影響で絶対数が減っておりますので、各競技団体の皆様方に置かれましても、自分の競技の周りにおられる少年スポーツの団体等にスポーツ少年団への加入の働きかけを

してほしいと思います。冒頭から挨拶と言いながら、皆さんにお願いばかりして長くなっていますが、本年度の成果は来年度の課題に直結するものでございます。また、皆様方のお力を頂き、30年度もいい年度となる様お願い致しまして、挨拶に変えたいと思います。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

3 議長選出

○本会定款第19条の2「評議員会の議長は、その評議員会において出席した評議員の中から互選する」に従い伊藤総務部長が議場へ諮ったところ、事務局に一任するとの声が挙がった。そのため、事務局案を伊藤総務部長が下記のとおり提案し、全会一致で承認された。

大分県ゴルフ協会 曾我 圭司 氏

○評議員会議事録の署名については、本会定款第23条第2項に「議長は議事録に記名押印する」と明記されている旨を伝える。（曾我議長よりあいさつを頂いた。以降は曾我議長による進行）

4 報告事項

- (1) 平成29年度事業報告について
- (2) 第37回九州ブロック大会、第72回国民体育大会成績について
- (3) 第73回国民体育大会冬季大会成績について
- (4) 各種大会成績について
- (5) スポーツ少年団について
- (6) 賛助会員加入状況について

佐保局長が上記の事項について、一括して報告。以下内容説明。

- (1) 平成29年度事業報告について

A4版「平成29年度臨時評議員会」2～6ページ。

昨年5月11日開催の臨時評議員会以降の事業について記載している。

全部で89事業ある為、主な事業について説明する。

- 2ページ、No. 1、5月15日（月）にスポーツ少年団外傷・障害防止担当者養成講習会を開催した。この講習会は本会内の専門委員会であるスポーツ医科学委員会と連携して、県立総合体育館において、5月15日から12月11日まで、No. 1、12、22、41、51、63に記載のとおり、年6回開催した。各回ともに様々な角度から子供の外傷・障害防止担当者としての知識を学べる研修になった。
- No. 11、6月11日（日）に広瀬知事と競技団体との懇談会を開催した。
大分県競技力向上対策本部長である二日市副知事、本会副会長の工藤教育長等の同席を頂き、愛媛国体での目標達成に向けて士気を高めた。
- 2ページ、No. 17、7月1日（土）平成29年度ドーピング防止研修会を開催した。

ドーピングコントロールや熱中症予防対策について知識や理解を深めた。

- 2 ページ、No. 19、7月7日（金）九州ブロック大会・国民体育大会帯同トレーナー研修会を開催した。
国体に出場する各競技に対応するトレーナーが一堂に会して、帯同トレーナーとしての考え方、知識等を研修するもので、帯同トレーナーも「チーム大分」の一員としての自覚を持って国体に臨む体制づくりができた。
- 3 ページ、No.21、7月8日（土）～23日（日）第37回九州ブロック大会夏季大会、No.29、8月10日（木）～27日（日）第37回九州ブロック大会秋季大会が、長崎県を主会場として開催された。
5 ページ、No.59、12月2日（土）～3日（日）福岡県で第37回九州ブロック大会冬季大会アイスホッケー競技会が開催された。成績については、後ほど報告する。
- No.27、8月1日（火）～5日（土）第44回日独スポーツ少年団同時交流事業が大分市で実施された。ドイツからスポーツユエグントの団員8名を迎え、大分市を中心に各種事業が行われ、交流を深めることができた。
- No.31、8月25日（金）～27日（日）第37回九州ブロックスポーツ少年団サッカー交流大会が大分市で開催された。九州各県から16団が参加し、サッカー競技を通じて交流を深めることができた。
- 4 ページ、No.38、9月30日（土）～10月10日（火）愛媛県を主会場として第72回国民体育大会が開催された。本県から、本部役員20名、監督選手403名、合計423名が参加した。成績については、後ほど報告する。
- No.47、11月7日（火）第72回国民体育大会大分県代表団反省会、工藤秀明スポーツ奨励賞授与式、第72回国民体育大会大分県代表団懇談会を、関係者約140名出席のもと開催し、「チーム大分」の結束と、第73回国民体育大会での「チーム大分」の復活を誓い合うことができた。
- No.50、11月12日（日）、平成29年度ガバナンス（適正な組織運営）研修会を開催した。スポーツ少年団関係者を対象に暴力や体罰の根絶に向け「アンガーマネジメント」（怒りの感情をコントロールする）の視点から研修を行った。残念ながら本年度本県においても数件ガバナンスに関する案件が起きている。社会から信頼される組織運営はスポーツ振興を図るうえでの最重要課題である。来年度もこの研修会は継続して開催する予定としている。
- 5 ページ、No.56、平成29年度総合型地域スポーツクラブ交流会を県立総合体育館で開催した。今回は、OBSの「おおいた元気フェスタ」とNHKの「ハートスポーツフェスタ」との同時開催により、例年の倍以上となる1300人の参加者を得て、県内各クラブ相互の交流を図るとともに、県民が総合型地域スポーツクラブへの理解を深める契機となる交流会となった。
- 6 ページ、No.72、1月26日（金）、公益財団法人大分県体育協会表彰式を執り行った。表彰の内容は記載の通りである。表彰された方々の今後益々の御活躍を期待したいと思う。
- No.74、1月28日（金）～2月1日（木）第73回国民体育大会冬季大会のアイスホッケー競技会が神奈川県で、スケート競技会が山梨県で開催された。
- No.81、スキー競技会が2月26日（月）～28日（水）新潟県で開催された。成績については、後ほど報告する。

○No.76、2月11日(日)、第26回大分県スポーツ少年団駅伝交流大会を大分スポーツ公園で開催した。だいきんドームの改修工事に伴い、昨年よりコースを変更しての開催となった。今回も、より多くの子ども達が参加できるよう「オープンの部」を設けことから、過去最高となる135団が参加した。この大会は本県のスポーツ少年団活動において、本県独自で開催している事業で、関係者には非常に好評を得ているものである。今後も更に参加団が増え、充実した大会となるよう、内容について検討していきたいと考えている。

(2) 第37回九州ブロック大会・第72回国民体育大会成績について

- 別冊資料1ページ、第37回九州ブロック大会代表兼獲得数・順位一覧(夏季・秋季総合)。本県は夏季、秋季を合わせた総合では、51の代表権を獲得し、順位は九州第3位である。
- 2～4ページ、夏季、秋季それぞれの競技種別ごとの代表権獲得一覧表である。
- 5ページから、第72回国民体育大会について掲載。
- 総合成績は、本県は936.5点を獲得し、天皇杯順位は第25位だった。
3、九州各県総合成績比較では、本県は九州ブロック大会では九州第3位の成績だった、国体でも九州第3位の成績だった。
- 6ページは優勝一覧、7～8ページは入賞一覧、9～25ページは大分県代表団すべての成績一覧である。
- 今回の愛媛国体では、成年種別得点や優勝数、上位入賞や上位入賞率、30点を獲得した競技数などが過去5年間の数値を上回るなど、成果を上げることができた。本年度の福井国体は勝負の年となる。本年の第73回福井国体では、何としてでも目標が達成できるよう、競技力向上対策に取り組んでいきたいと考えている。

(3) 第73回国民体育大会冬季大会成績について

- アイスホッケー競技が、本年の1月28日(日)神奈川県横浜市で開催された。本県は1回戦で本年の第73回国体開催県である福井県と対戦し健闘したが、2対14で敗退した。
- スケート競技ショートトラック種目が、本年の1月31日(水)～2月1日(木)にかけて、山梨県甲府市で開催された。一昨年から出場している本県出身で福岡大学の佐藤陽太郎選手が今回も引き続き出場した。佐藤選手は大学入学後からスケートを始め、トレーニングを積み、出場資格であるバッジテストB級を昨年取得しての出場である。結果は500m・1000mともに残念ながら予選敗退だったが、確実に昨年を上回るスケータリングだった。
- スキー競技のジャイアントスラローム種目とクロスカントリー種目が、2月26日(月)～28日(水)にかけて、新潟県妙高市で開催された。本県からジャイアントスラロームに9名、クロスカントリーに1名の計10名が出場し、結果は、残念ながら入賞には至らなかった。
- 出場した冬季競技は厳しい練習環境の中、できる限りの準備をして、大会に臨んでいただいた。結果は厳しいものではあったが、出場した選手は、復活を期す「チーム大分」の先陣として、精一杯戦っていただいた。

(4) 各種大会成績について

5月11日（木）～3月19日（月）までの成績で、中学生は全国大会ベスト8以上、社会人・高校生は九州大会ベスト4以上・全国大会ベスト8以上を掲載している。

○8ページ～36ページまで、約1年分の結果を掲載している。本日は資料提供をもって報告に替えさせていただきたい。

(5) スポーツ少年団について

○37ページ、平成29年度登録状況前年度比較表にて説明。日体協への登録は昨年9月30日で終了しているが、この資料は日体協締切後、2月20日までに大分県への追加登録があった実数も加えている。まず、団数については昨年度580団の登録に対して、本年度588団で、8団の増加となっている。これは、8年ぶりの増加である。

○指導者数は前年度2千584名に対して、本年度2千600名で、16名の増加となった。

○団員数は前年度1万1千815名に対して、本年度1万1千971名で、156名の増加となっている。団員の増加については、3年連続の増加である。

○38ページ、日本スポーツ少年団登録数一覧である。網掛けが大分県だが、一番右の前年度比の数字を見ると、多くの県でマイナスとなっていることがわかる。なお、増加数の数字が37ページと違うのは、集計の年月日が違うことによるものである。

○本県の3年連続の登録数増という結果は、各市町村担当者の方々の熱心な取組の成果である。今後もなお一層、市町村と密接な連携を図りながら登録促進に努めたいと考えている。

(6) 賛助会員加入状況について

○39ページ、本年度の賛助会員加入状況を昨年度との比較で示している。3月16日時点での本年度の賛助会費総額は表の下にあるように、375万5千円で、前年度比2万円の減である。内訳は、上段の法人会員が本年度は75件220万円で前年度比、件数で8件減、金額で16万円の減である。下段の個人会員は、本年度187件155万5千円で前年度比、件数で34件の増、金額で14万円の増である。

○本会の財政状況については、これまで厳しい状況がつづき、今後の安定的な財政基盤の確立に向けて、賛助会員の拡充は喫緊の課題でもある。来年度に向けましては、400万円を目標にして、賛助会員制度への協力依頼を積極的に行っていきたいと考えている。評議員の皆様方には、御自身の所属団体への働きかけなどについて、引き続き御協力を賜りますようお願い申し上げます。

(曾我議長が1から6の報告事項について質問の有無等を議場へ諮ったが、特になかった。)

5 議事

【議事1 平成30年度運営方針及び専門委員会基本方針について】

○佐保局長が以下の通り提案した。

○40ページ、ここからの内容については、本日午後に理事会があるので、こちらに諮り決定をしていくものであるため、(案)が取れるのは理事会を経てということをお願いしておく。

大分県体育協会運営方針について「ねらい」、「基本方針」は本年度から変更点はないので、読み上げて説明するものとする。

「ねらい」

スポーツを振興し、県民の体力向上とスポーツ精神の養成を通じた心身の健全な発展を図る。

「基本方針」

- 1、スポーツの普及・振興事業の充実
- 2、競技力向上対策の計画的推進
- 3、財政基盤の確立
- 4、加盟団体の組織の充実と活動促進
- 5、指導者の養成と指導者組織の充実・強化
- 6、スポーツ少年団活動の推進と組織の充実
- 7、スポーツ医科学に関する研究推進と関連機関との連携強化
- 8、国際交流活動の推進
- 9、広報活動の充実
- 10、本県スポーツの振興に顕著な功績を挙げた個人・団体の顕彰
- 11、関係機関・団体との連携強化
- 12、総合型地域スポーツクラブの創設・育成の推進

「平成30年 重点的取組」

- 1、第73回国民体育大会での目標達成に向けた競技力向上対策の推進

第72回愛媛国体をステップとして、第73回福井国体において「チーム大分」の復活を果たすことが来年度の最も重要な取り組みとなる。本会は「基本方針」にあるように多岐にわたってスポーツの振興に取り組んでいるが、特に、国体での「チーム大分」の活躍は県民の関心も高く、本県におけるスポーツ振興の推進力ともいえるべき国体での「チーム大分」の活躍は、今後の本県のスポーツの振興にとって非常に重要な役割を持つことから、重点的取組とした。

- 2、財政基盤の確立と財務体制の強化

本会は公益法人移行後、毎年赤字決算の状況が続いており、安定的な収入の確保と支出の削減が求められている。これらのことから、来年度の本会の課題と位置付けて項目に挙げた。

○本会内の専門委員会の基本方針について

○41ページ、競技力向上委員会基本方針について

「ねらい」・「基本方針」につきましては、本年度からの変更点はないので、説明は省略する。

「平成30年度 重点的取組」

- 1、大分県競技力向上対策本部と連携し、第73回国民体育大会において活躍が期待される競技の重点強化を図る。

第73回福井国体において「チーム大分」の復活を果たすことが来年度の最も重要な取り組みであることから、重点的取組として挙げている。

- 2、スポーツ医科学の積極的な活用を図る。

本会のスポーツ医科学委員会では、組織改編により、本年度より新たな体制でスタートしており、メディカル・サポート部会、研修部会の専門部会を設けて、競技力向上に向けて様々な角度から新しい取組を始めたところである。この取組をさらに発展させていくことが重要

なことから、重点的取組として挙げた。

○42ページ、第73回国民体育大会の目標・スローガン（案）について

1. 目標

昨年は、2年越しで10位台を目指すことを前提に、第72回国民体育大会の目標を「20位台上位」と提案した。これを踏まえ、平成30年の第73回福井国体での目標を「10位台」としたいと考えている。

○目標順位を達成するための得点だが、過去には1000点を目標にしていた。しかしながら、参考資料にある過去5年間の天皇杯順位第16位から20位の得点推移表の平均値をみると、1000点では足りない状況となっている。よって競技得点650点に参加点400点を加えた「1050点」を目標得点として提案したいと思う。

○下段には、国体開催県における開催後の順位変動表を掲載しているのので、本県の状況をご確認いただきたい。

2. スローガン

「チーム大分」は第71回岩手国体の結果を受け、「第72回愛媛国体をステップに第73回福井国体で10位台へ復活」という流れで進んでいる。本年度の愛媛国体で復活を果たした訳ではないので、スローガンについては本年度から変更せず、復活～ネバーギブアップ～を継続したいと考えている。

○43ページ、平成30年度スポーツ大分パワーアップ事業 実施要項（案）について

この事業は、先程の基本方針、平成30年度重点的取組、第73回国体の目標等を受けて、具体的な強化を実施する事業である。

1. 趣旨

本県選手が国民体育大会をはじめとする各種全国大会やオリンピックなどの国際大会で活躍することができるよう、競技団体や学校等と連携した選手強化を図る。また、スポーツ医学を活用したサポート体制の充実や、指導者の資質の向上を図り、効果的な競技力向上対策を推進するとなっている。

2. 事業内容

- (1) 「拠点等強化対策」
- (2) 「国体サポート対策」
- (3) 「スポーツ医学の活用支援」
- (4) 「指導者育成対策」
- (5) 「スポーツ大分基盤整備」の5つの柱立てで構成している。

○(1) 拠点等強化対策については、本年度予算は全事業予算の約65%と、この事業の中で最もウェイトの大きな事業である。内容は、①の拠点強化対策、②個人強化対策、③特別強化対策となっており、本年度からの変更はない。

①拠点強化対策について

昨年度から短期戦略による強化方針に則って、重点強化競技の日常の強化拠点を効果的に強化、また、強化費を重点的に配分するという観点から、指定ランクを「最重点」、「重点」、「育成」の3ランクとし、それに伴い、指定費を最重点80万円、重点50万円、育成10万円としている。

競技ごとの指定数は、少年は原則男女それぞれ2校で、直近の県大会等で上位2校を指定した。個人競技については例外として複数校指定している。指定ランクの根拠は、重点強化競技であり、本年度の実績等から分析される来年度活躍見込みが高い順にランク付けしている。

成年の指定は、実態に応じた指定数として、指定ランクの根拠は少年と同様である。

②個人強化対策について内容の一部を変更している。

本年度は、2020年の東京オリンピックに向けた強化を図るため、大分県競技力向上対策本部が指定する選手を対象に連携して支援を行ってきたが、オリンピックが近づいたことにより、来年度の指定選手が本年度の56人から11人に絞り込まれた。これを踏まえ、11人の指定選手に加え、本県在住または本県出身選手で、全国トップレベルの競技力を有する選手や、将来日本代表としての資質を有する少年選手を指定して、その活動を支援するものである。

指定ランクは3ランクで、指定費については、本年の申請方式から交付に変更したいと考えている。

○その他の事業内容については、本年度からの変更点はない。

○44ページ、スポーツ医科学委員会基本方針（案）について

「ねらい」、「基本方針」については、本年度から変更点はないので、説明は割愛する。

「平成30年度 重点的取組」

1. 第73回国民体育大会での目標達成に向け、競技団体とドクター・トレーナー等との連携をより一層図り、本県選手をサポートする。

本委員会では、「ねらい」にある通り、県民のスポーツ振興に寄与することがねらいだが、とりわけ、競技力の向上、特に、国民体育大会に向けた「チーム大分」のサポートにこれまで重点的に取り組んでいただいている。今後、各競技団体内でのスポーツ医科学の浸透を図るためには、より一層、競技団体との連携を推進する必要があると考え提案する。

2. スポーツ医科学委員会各専門部会の活動を推進し、医科学における諸問題の解決を図る。

本委員会は本年度組織改編を行い各専門部会も新たなスタートを切ったばかりである。来年度に向けては、新たな体制を機能させ、専門部会のより一層充実した活動を目指していく必要があると考え、この項目を上げた。

○45ページ、大分県スポーツ少年団運営方針（案）について

「ねらい」、「基本方針」については本年度から変更点はないので、説明は割愛する。

「平成30年度 重点的取組」

- (1) 県内市町村少年団本部及び各競技団体との連携を密にし、少年団登録の促進に努める。

本県では3年連続で登録数が増えていることから、市町村や競技団体との連携を一層強化し、引き続き登録数を増やしていく取組が必要と考え、項目として挙げた。

- (2) 本県で開催する「第50回九州ブロックスポーツ少年大会」が充実した大会となるよう、指導者・リーダー・関係者等と連携を図り、計画・実行する。

九州各県輪番で開催され、平成30年度は本県が担当県となることから、指導者・リーダー・

関係者等と連携を図り、大会の成功に向け取り組んでいきたいと考え、項目として挙げた。

- (3) 本県で開催する「第16回全国スポーツ少年団バレーボール交流大会」の成功に向け、関係機関との連携を図り、計画・実行する。

本県において全国規模の競技別大会が開催されるのは、平成7年の卓球大会以来23年ぶりとなることから、日本体育協会、開催市となる別府市・大分市、県バレーボール協会等、関係機関と連携し、大会の成功に向け取り組んでいきたいと考え、項目として挙げた。

以下、議案1に関する質疑応答

大分県ソフトボール協会

栗林 久 氏：42ページ、第73回国民体育大会の目標・スローガン（案）について

「第73回国民体育大会の目標だが、天皇杯10位台に入れる確率が0ではなく0.7%あるという示し方ではなく、各競技団体に対して得点目標のような、もっと具体的な達成目標を示してはいかがだろうか」との意見が述べられた。

(曾我議長が議案1についてその他質問の有無等を議場へ諮ったが、特になかった)

(曾我議長が議案1を議場へ諮ったところ、全会一致で承認された)

【議案2 平成30年度事業計画（案）について】

○佐保局長が以下の通り提案した。

○46ページ、平成30年度事業計画（案）について、事業が多岐にわたっているので、抜粋して説明する。

1 本協会理事会・評議員会

本年度が理事の改選期であったので、平成30年度は改選期ではない。評議員会を3回、理事会を4回予定している。なお、本会理事会規程第7条により、人事異動等に伴う改選の手続きにおいて、書面で決議をお願いする場合もあるので御協力をお願いする。

3 国民体育大会並びに九州ブロック大会関係

第38回九州ブロック大会は鹿児島県、第73回国民体育大会本大会は福井県、第74回国民体育大会冬季大会はスケート・アイスホッケー・スキー競技ともに北海道となっている。

4 国体及び九州ブロック大会関係の諸会議等

県代表団の結団壮行式及び監督・主将会議等は9月20日に開催の予定である。

6 関係専門委員会等の会議並びに事業

②のスポーツ医科学委員会関係では、一昨年度から新たに取り組みを始めた「加盟競技団体スポーツ医科学担当者連絡協議会」を平成30年度も引き続き6月と12月に開催する予定としている。この会は、各競技団体間でスポーツ医科学に関する情報を共有しながら、スポーツ医科学関係者との連携を図ることを目的として開催するものである。

③スポーツ少年団関係だが、先ほどスポーツ少年団の重点的取組であげた、第50回九州ブロックスポーツ少年大会は、約200名の参加で8月2日から5日までの4日間、のつはる少年

自然の家で、第16回全国スポーツ少年団バレーボール交流大会は、約870名の参加で、平成31年3月28日から31日までの4日間、別府市総合体育館、県立総合体育館、コンパルホールを会場とし開催する予定である。

7 その他の本会主催会議の加盟競技団体ガバナンス研修会は、11月10日に開催する予定としている。この研修会は一昨年度から開始した研修会で、初年度は加盟競技団体理事長・事務局長を、昨年度は強化指定団体の指導者を、本年度はスポーツ少年団関係者を対象として開催した。競技団体や部活動・スポーツ活動において、社会から信頼される組織運営は、スポーツ振興を図る上での最重要課題である。来年度は再度、加盟競技団体理事長・事務局長を対象として、内容を検討しながら開催したいと考えている。

9 表彰関係事業

本県のスポーツ振興を図る上で、表彰というのは非常に重要な事業である。より多くの方々を表彰できるように、被表彰者の積極的な推薦につきまして、関係機関に働きかけていきたいと思う。

12 その他

①広瀬会長と競技団体との懇談会については、例年どおりの6月上旬で調整している。

○説明した以外の事業については、本年度から大きな変更はない。

(曾我議長が議案2について質問の有無等を議場へ諮ったが、特になかった)

(曾我議長が議案2を議場へ諮ったところ、全会一致で承認された)

【議案3 平成30年度収支予算について】

○佐保局長が以下の通り提案した。

○48ページ、現在、県議会において平成30年度予算案について審議中であるので、本日提示する予算案のうち、県からの補助金については、県議会の議決を前提として提案するものである。

○本会では会計を「大分県スポーツ振興事業」、「大分県スポーツ少年団事業」、「大分県スポーツ普及・表彰事業」の3つの事業に振り分けている。それに加えて、事務局運営に関する「法人会計」の、合計4つの会計によって平成30年度の収支予算(案)を編成している。

○49ページ以降に各会計ごとの収支予算(案)を示しているが、非常に細かいので48ページの次に挟み込んでいる、A3の概要版を使って説明する。

○表の見方は、表の上段が経常収益、いわゆる収入の部である。これらの収入を各会計に振り分けている。振り分けの詳細は各事業ごとの収支予算書に記載している。下段の経常費用が支出の部、収支の差額が3の当期経常増減額となっている。一番下のローマ数字Ⅲの正味財産期末残高は、予算通り執行した場合の本会の財産残高を示している。また、前年度予算額は本年1月に補正予算を編成したので、その補正予算額を記載している。なお、表の右の小さな数字は行数である。

○1の経常収益から説明する。

○4行目、受取会費予算額は前年度比9万5千円増額の2千79万1千円である。これは、9行目、スポーツ少年団登録料の予算額を登録者数が増えたことにより増額したことによるものである。

○11行目、受取補助金等だが、予算額は前年度比6千570万5千368円増額の2億6千92

1万8千円である。これは、国体開催地が愛媛県から福井県へ、九州ブロック大会開催地が長崎県から鹿児島県への変更による増額である。

- 16行目、受取民間補助金だが、予算額は前年度比99万3千2百円増額の464万5千円である。これは、本年度本県で開催したブロック競技別交流大会、ブロックリーダー研究大会が他県開催となること、来年度、九州ブロック指導者研究協議会・九州ブロック会議・九州ブロック少年大会が本県での開催となること、全国大会開催地の変更や大会参加人数の変更によるものである。
- 25行目、受託収益だが、予算額は前年度比31万1千円増額の101万円である。これは、講習会の開催数増によるものである。
- 31行目、受取負担金だが、予算額は前年度比110万364円増額の320万8千円である。これも、受取民間補助金同様、各種大会の開催地の変更や、参加者数の増減によるものである。
- 42行目、受取寄付金だが、予算額は前年度比10万840円増額の726万となっている。これは、スポーツ振興協力金、いわゆるゴルフ募金の本年度実績見込みによるものである。
- 49行目、雑収益だが、予算額は前年度比6万8千円減額の153万円である。これは、本年度実績によるものである。
- 52行目、経常収益計は、前年度比6千827万9千772円増額の、3億962万2千円である。
- 53行目以降の2の経常費用を説明する。
- 54行目、大分県スポーツ振興事業予算額は、前年度比6千567万3千368円増額の2億6千472万6千円である。これは、63行目の国民体育大会、64行目の九州ブロック大会開催地の変更によるものである。なお、56行目、選手強化補助だが、この項目は、競技力向上対策事業である「スポーツ大分パワーアップ事業」であり、総額は1億1千万円が変わらないが、内容は実態に応じて増減させている。
- 65行目、大分県スポーツ少年団事業予算額は、前年度比345万9千024円増額の1千219万1千円である。これは、来年度本県で開催する大会費の増や各種大会の会場地の変更、参加者数の増減によるものである。
- 72行目、大分県スポーツ普及・表彰事業予算額は、前年度比15万8千505円増額の489万7千円である。これは、本年度実績によるものである。
- 78行目、※印の上記3事業の事業管理費だが、この事業管理費は上記3事業に係る人件費、通信運搬費等を合わせてここに計上している。予算額は前年度比5千195円増額の2千150万6千円となっている。また、80行目、法人会計の管理費だが、前年度比1万3千338円減額の630万2千円となっている。
- 81行目、経常費用計は、前年度比6千928万2千754円増額の、3億962万2千円である。
- 82行目、3の当期経常増減額だが、4つそれぞれの事業の収支差額合計は、87行目、前年度比100万2千982円減額の0円である。
- 91行目、正味財産期末残高は、予算通り執行した場合の本会の財産残高を示しているが、前年度比66万円減額の、3千438万4千315円となっている。
- 本年度同様、収支0予算の編成となっている。

(曾我議長が議案3について質問の有無等を議場へ諮ったが、特になかった)
(曾我議長が議案3を議場へ諮ったところ、全会一致で承認された)

6 その他

【その他 (1) 評議員の選任について】

○佐保局長が以下の通り説明した。

- 53ページ、評議員の任期は定款第15条により4年となっており、平成27年度に本会が公益法人に移行して初めての改選を行ったので、平成30年度は任期4年目である。
- したがって、改選期ではないが、例年、団体内において役職変更があったり、人事異動などによって、評議員を変更する場合がありますので、今回、評議員の選任について簡単に説明する。
- まず、図の一番上、4月に入ったら体協事務局から各加盟団体に対して評議員の変更の有無を確認するので、変更する場合は、新たな評議員を推薦することとなる。その際、新しく評議員になる方、評議員を退任される方、それぞれに関係書類を御提出して頂く。
- その後、4月26日の評議員選定委員会により、新しい評議員の方が選定され、5月14日の臨時評議員会において、新評議員が選任されるという流れである。

【その他 (2) 今後の主要行事について】

○佐保局長が以下の通り説明した。

- 46・47ページ、今後の主要行事について連絡する。
- 47ページ、
 - 7 その他の本会主催会議
 - 加盟競技団体事務局長会議 4月11日(水) 14:30～だいぎんドーム
- 46ページ、
 - 6 ①競技力向上委員会関係
 - 強化指定委嘱状交付式 4月19日(木) 10:00～大分県医師会館
 - 1 本協会理事会・評議員会
 - 臨時評議会 5月14日(月) 10:30～大分県医師会館
 - 第1回理事会 5月14日(月) 15:00～大分県医師会館
 - 定時評議員会 5月29日(火) 10:30～大分県医師会館で開催する。

(曾我議長があいさつを述べた)

7 閉会のことば

○伊藤総務部長が閉会のことばを述べた。

平成30年3月20日

議長 曾我 圭司